

# 母性看護技術論

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：妊娠・分娩・産褥期にある母子（含、胎児および家族）にとって必要な援助技術について、看護過程を展開しながら、学生が主体的に学修する。

■**到達目標**：①母性看護に必要な基本的技術が、原理と根拠を明確にして実施できる。  
②事例演習を通して、褥婦および新生児（含、家族）に必要な看護過程が展開できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎石引 かずみ・渡邊 由加利・山本 真由美

■**授業計画・内容**：

- 第1回 コースオリエンテーション・母性看護に必要な看護技術のデモンストレーション  
第2回～3回 妊娠期の看護技術（妊婦健康診査：レオポルド触診法、子宮底・腹囲の測定など）  
第4回 分娩期の看護技術（産痛緩和法、緊急時の対応など）  
第5回～7回 産褥期の看護技術（子宮復古の観察・促進の援助、乳房の観察など）  
看護過程（産褥期）の展開  
第8回～13回 新生児期の看護技術①（育児技術：沐浴、臍処置、衣類の交換など）  
新生児期の看護技術②（健康診査：バイタルサインの測定、フィジカルアセスメントなど）  
看護過程（新生児期）の展開  
第14回～15回 看護過程フィードバック、既習技術の復習・まとめ

\*順序は変更の可能性があります。

\*技術演習は、基本的に2講連続でグループにわかれて行います。

■**教科書**：有森直子編「母性看護学Ⅱ 周産期各論」（医歯薬出版，2015）  
配布資料を適時配布する

■**参考文献**：森恵美他「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 [2]」（医学書院，2016）  
平澤美恵子他「写真でわかる母性看護技術」（インターメディカ，2008）  
横尾京子他「ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術」（メディカ出版，2016）  
櫛引美代子「カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 第2版」（医歯薬出版，2007）  
// 「カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術」（医歯薬出版，2006）  
太田操「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第2版」（医歯薬出版，2009）  
佐世正勝他「ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図第3版」（医学書院，2016）

■**成績評価基準と方法**：

- ・授業への参加状況および定期試験・提出物による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎			80
看護過程		◎	内容の適切性・提出期限の厳守	20
授業態度	◎	○	積極的な姿勢・演習の態度	減点

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：母性看護学概論 母性看護援助論 母性看護学臨地実習 小児看護援助論 小児看護技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：技術に必要な基礎知識を事前に確認し、積極的な態度で学修に臨んでください。